

教育長が語る。子どもたちの**未来型学校教育**の充実に向けた

# GIGAスクール構想の現在地と未来

ひろと  
坂元 裕人 教育長  
平成 29 年に就任。  
現在 3 期目。  
教育のモットーは  
「よさの発見」。  
垂水市本町出身。

**Q1 GIGAスクール構想事業が始まって、1年以上が経ちましたが、手応えはどうですか？**

**県** 内の他市町村と比較するのではないかと感じています。全国

の先進地に比べると、質的にはまだまだ改善の余地があります。量的には「いつでも、どこでも」文房具感覚で、使う頻度も高

なっていると思います。

ただ、「井の中の蛙大海を知ら

ず」とならないように、全国のGIGAスクール構想の動向や県内の市町村の進捗状況にも、常にアンテナを張って情報収集に努めています。まだまだ足りないところ

はありますが、総体的には順調に推進できているという手応えを感じています。

**Q2 改善点や反省点がありますか？**

**改** 善点や反省点は、一生懸命に取り組んでいるからこそ

**Q3 垂水らしいGIGAスクール構想を掲げ、家庭への持ち帰りや修学旅行等での活用など、特色あるものがありますが、効果などがありますか？**

**持** ち帰りについては、保護者の理解も進み、また、コロナ禍にあっても、オンライン授業の実施により、児童生徒の学びの保障がなされています。本市では、学校外での活用も、児童生徒や教職員の豊かな発想で、進めることができています。

面白い活用として、部活動の試合のオンラインによる生中継も可能となり、生徒たちの活躍を瞬時に観ることができ、学校職員や生徒たちの励みにもなっています。

**Q4 以前、教育長が、タブレット端末を活用することは「目的」ではなく、あくまでも子どもたち**

**情** 報端末を使った経験が次世代学習のベースとなりますので、学習面、生活面でも活用を進め、情報端末活用を主体的に進められるようにしなければならぬと考えています。そういう意味で、活用が進められる中では、「find error」、「課題は成果であり、次への改善目標」などといった意識が求められています。

子どもたちの発想は実に豊かであり、使われる場面も増え、使い方もユニークです。教師より子どもの方が慣れるのが早く、子どもから「こんな使い方ができるよ」との声もよく聞かれ、このような経験をjえて、「子どもの学びの姿」ができあがっていきます。GIGAスクールは教師と子どもがつくりあける授業そのものです。

の成果であり、次への目標である

と、前向きにとらえています。

① 学校間、教師間等の格差

導入前の共通理解の場や教職員への事前の研修を十分行うことができませんでした。教職員の授業改善と業務改善を一体として推進していく必要があります、教職員のスキルアップを含めたより具体的、実践的な研修が欠かせないと考えています。

② 保護者の理解促進と不安感の払拭

**Q5 現在、県内トップクラスのGIGAスクール構想を推進していますが、今後は、未来ある子どもたちのために、どのように磨いていきたいですか？**

**本** 市のGIGAスクール構想を更に加速させる、磨きをかけるために、更なるスキルアップが求められます。

① これまでの実践をデータ化

データの蓄積により、児童生徒が次世代型の能力を培っている証拠を得られるように検証していく必要があります。

② 格差への対応

より具体的で一貫性を持たせた研修や保護者向けの講演会等を定期的に開催することが必要です。

③ 市民を巻き込んだ取組

例えば、A・ドイルを体験できるコーナーを設け、よさを実感してもらいたいと思っています。

未来の子どもたちにまいていく種は、「創造力、論理的思考力、

子どもが家庭でどんな使い方をしているのか、どのように保護者として関わればよいのか不安があると

思います。そこで、保護者の理解を深めるために、本市の渡邊アドバイザーの保護者向け講演会を6月に開催し、GIGAスクール構想を推進することの必要性、保護者として、家庭でどのように関わればよいのか等お話ししていただきました。

問題解決能力」の三つの資質能力の育成だと考えています。

本市の先進校の取組から、三つの資質能力を育成するための未来の姿が見えてきます。新城小学校では、ICTと郷土教育をベストミックスさせた教育活動に取り組んでいきます。子どもたちの創造の見える化を行い、これまで2次元（紙媒体等）でしか発表できなかったものを、よりリアルな3次元の中で自分たちの学びの成果を表現することを目指しています。



▲子どもたちが創造している新城小学校周辺図（一部）